

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	永木拓馬	学校名	大阪市立大隅西小学校
実施学年	小学校2年生	教科	生活科
单元名	どきどき わくわく まちたんけん		

《学びを深めたいポイント》

子どもたちが地域の様々な場所や人々と実際に関わる体験を通して、地域と自分とのつながりに気付き、親しみを持つことを目指したい。さらに、探検での発見や驚き、気付きなどを「記録」し、「共有」することで、学びをより深めていけるようにしたい。ICTを活用して、表現活動や振り返りを可視化することで、友達との学び合いが広がり、「もっと知りたい」「また行きたい」という探究心につなげたい。

《SKYMENU 活用のポイント》

本実践では、SKYMENU CLOUD の「発表ノート」機能を中心に活用した。特に、発表ノートは写真・文字・音声・スタンプ・手書きなど、多様な表現手段を組み合わせる自由なまといめることができるため、まだ言葉での説明が十分でない小学校2年生にとっても直感的で扱いやすいツールである。今回の町たんけんでは、グループごとにタブレットを1台持って活動を行い、見つけたものを写真に撮ったり、気になったことをその場で音声や文字で記録したりすることで、子どもたちが自分の「気付き」を逃さずに残すことができた。

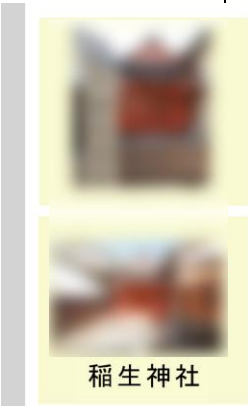
また、発表ノートには、あらかじめ「おすすめの場所」「びっくりしたこと」「お話を聞いた人」「また行ってみたいところ」などの見出しを用意しておき、子どもたちはそれに沿って内容を記入した。こうすることで、情報を整理しながら表現することができた。また、文章が苦手な児童でも、写真にスタンプを押したり、吹き出しをつけたりするだけで、気付きや驚きを簡単に表現できる。文字だけの記録よりも感情が伝わりやすく、自分の学びを「見える化」することができた。

教室に戻った後は、作成した発表ノートを SKYMENU の共有機能を使って大型提示装置に映し出し、グループごとに発表会を行った。友達の発表を見た子どもたちは、「そこも行ってみたかったな」「知らなかったことがわかったよ」などと興味を広げる姿が多く見られた。また、他グループと自分たちのまとめ方を比較する中で、「写真の撮り方を工夫すると、もっと伝わりやすくなる」「吹き出しで質問をつけると、見た人が考えやすい」など、表現の仕方にも目を向けるようになった。このように、単に記録するだけでなく、「誰かに伝える」「見てもらう」ことを意識した発表ノートの活用は、子どもたちの伝え合う力の育成にもつながった。

さらに、各グループが作成した発表ノートを QR コードにして印刷し、教室内に掲示した大きな絵地図に貼り付けた。この工夫によって、発表会後も他グループのまとめをいつでも見ることができ、学びを繰り返し振り返る環境が整った。QR コードから直接 PDF 化した発表ノートにアクセスできることで、保護者との共有や、学級だよりなどでの活用も可能となり、学びが学校の外へと広がっていく。

このように、SKYMENU の発表ノートは、子どもたちの記録・整理・共有・振り返りという一連の学習プロセスをスムーズに支えると同時に、表現する楽しさや友達とのつながり、地域との関わりを実感できる場を創出する非常に効果的なツールであった。今後も、こうした ICT の特性を生かしながら、子どもたちの学びが「個から集団へ」「体験から探究へ」と広がっていく授業づくりを続けていきたい。

《実践内容》（単元計画）

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	○校区地図を黒板に掲示し、「行ってみたい場所」「気になっている場所」「不思議に思っている建物」などを話し合う。 ○地図には子どもたちの家の位置や、駅・公園・商店街などの目印を貼り、見通しを持たせる。	○黒板の地図に関連した地域の写真や動画を、SKYMENU の画面共有機能で提示し、関心を高める導入とした。 	○視覚的な情報を取り入れることで、「実際に行ってみたい」「気になる!」という意欲を引き出した。
展 開	○グループ別町たんけん ・写真を撮ったり、インタビューをしたり、メモをとったりする。 ・教室に戻り、発表ノートに見つけたこと・気付いたこと・インタビューの内容をまとめる。 	○タブレットで撮影した写真を発表ノートに貼り、「びっくりしたこと」「聞いた話」「もっと知りたいこと」などを吹き出して記入。必要に応じて音声入力も活用。 	○写真やコメント、スタンプを自由に組み合わせながらまとめることで、低学年でも楽しく・分かりやすく振り返りができた。紙のワークシートよりも表現の幅が広がり、子どもたちの気付きが具体的に記録された。 
ま と め	○グループごとに発表ノートを大型モニターで提示し、クラス全体で発見を共有。 ・発表ノートの別ページに振り返りを記入する。	○発表ノートを画面で順に大型モニターで共有し、発表。ふり返りは発表ノートの別ページに記入。	○他者の視点を知ることで、自分の学びの幅が広がった。振り返りをデジタルで行うことで、記録として残り、後の単元にもつなげやすくなった。また、絵地図にPDF化した発表ノートの QR コードを貼ることで、いつでも見返せる仕組みを作った。

《実践を振り返って》

今回の実践では、町たんけんでの体験を記録し、共有する手段として SKYMENU の「発表ノート」を活用した。これにより、子どもたち一人ひとりの気付きや発見が具体的に可視化され、学びの広がりが生まれた。タブレットに不慣れな児童もいたが、写真を撮る、スタンプを押す、吹き出して気持ちを書くといった操作は直感的で、楽しみながら取り組む様子が見られた。紙の探検カードでは表現しづらい「びっくりしたこと」「聞いた話」「心に残ったこと」を、写真と組み合わせることで、低学年でも豊かな振り返りが実現できた。

また、発表ノートを活用したことで、学びが個人の記録で終わらず、クラス全体での共有・対話へと発展した。他グループのまとめを見て、「こんな場所もあったんだ。」「また行ってみたい!」と興味を持つ児童が多く、地域や友達への関心が深まっていく様子が印象的だった。共有の場では、発見したことだけでなく、「どうしてそこが気になったのか」「どんなふう感じたのか」など、心の動きまで言葉にしようとする姿も見られ、子どもたちの表現力や伝え合う力の成長を感じた。

さらに、学習の足跡を絵地図と発表ノートで残すことで、単元後も振り返りができる環境が整った。QRコードで教室に常時掲示しておくことで、子どもたちがいつでも他のグループの探検を「再体験」できる仕組みができ、学びの継続にもつながった。

ICT の活用は、ただ便利にするだけでなく、子どもたちの「もっと知りたい」「伝えたい」「比べてみたい」といった学びの原動力を引き出す力を持っていると改めて実感した。今後も、体験と表現、共有と振り返りがつながるような学習活動を工夫し、子どもたちの学びがより深まり、広がる授業を目指していきたい。